



「左京×学生縁ねっとなんね」とは、左京区在住又は左京区内で活動する学生のアイデアや行動力を地域のまちづくり活動にいかす仕組みです。「学生」と「地域」をボランティア活動でつなげ、左京区の地域活性化をめざします。学生ボランティアは常時募集中。ご参加ください！



## 舞い上がる火の粉を間近で体感 「鞍馬の火祭」ボランティアに行ってきました！

2014年10月22日(水)、京都市左京区の由岐神社一帯で行われた「鞍馬の火祭サポートボランティア」に、学生レポーターの長谷が参加しました。「鞍馬の火祭」は日本三大奇祭のひとつで、鞍馬の住民が代々守り続けてきた例祭です。「縁ねっとなんね」からは20人が参加し、「鞍馬の火祭」を安全に運営するため観客の誘導やマップ配布を行いました。

## 鮮やかによみがえる 1千年前の情景



「神事(じんじ)にまいらっしゃーれ」。午後6時、掛け声を合図に、民家の軒先で一齐に「かがり火」がともされ、祭りが始まります。燃えさかる大きな松明を担ぎ、ふんどし姿の半裸の男衆が練り歩く様子は圧巻。「サイレイヤ、サイリョウ」の力強い掛け声が響きます。

この祭りの起源は約1千年前、平安時代にさかのぼります。町全体が灯に照らされ、松明や神道具を御所から鞍馬に運ぶ当時の情景が鮮やかに蘇りました。



こんなマップを  
配布しました！

## 長蛇の列 観光客にチラシ配り 地元の人と交流も

そんな様子を一目見ようと、狭い道路には観光客が詰めかけていました。学生ボランティアたちはペンライトを持ち「ゆっくり進んでください」「ここは折り返し地点です」と声かけをしたり、看板(プラカード)を持って誘導をしたり、マップを配布しました。観光客の中には海外から来られる方も多くいます。

学生たちは、英語を使っただけの説明に悪戦苦闘。地元の方との交流も楽しみました。雨上がりの鞍馬一帯は冷え込み、手もかじかみます。パチパチとはぜるかがり火で暖をとりながら午後9時過ぎまで作業にあたりました。



京都っぽいことがしくて参加しました。地元の人と仲良くなって、コーヒーをいただきました。いろんな人と話したことが一番面白かった。また来たいです

京都府立大学2年生 田口優子さん

## 学生ボランティアに 活動の感想を ききました！



京都大学大学院M2年生 片山晋太郎さん

ボランティアは昨年に続き2回目です。実は、火祭は過去に観光客として見に来ていました。今回、祭の運営のお手伝いを通して、祭に関わる地域の人たちの熱い思いに触れることができたことが、印象に残っています。

## 編集後記

叡山電鉄出町柳駅から、火祭めあての観光客で満員の電車に乗り込み、鞍馬へ向かいました。ボランティアは専用パスがあるので無料。ちなみに、活動前には和菓子付きの豪華なお弁当が支給されます。初めて行った鞍馬は自然豊かな場所で、「鞍馬の火祭」も幻想的でした。人だかりができる中、間近で神事を体感できるのはボランティアならではの、京都に根付く伝統を、肌で感じる事ができた一日でした。

(縁ねっとなんねレポーター：長谷美幸(同志社大学))